

分科会：書くこと（坂出・綾歌支部）

# 生きて働く力を育む国語教室

言葉による見方・考え方を働かせて深める  
「書くこと」の指導と評価

香川県坂出市立白峰中学校 苧坂 恭子

# 発表内容

---

- 1 研究テーマ設定の理由**
  - (1) これまでの研究の流れ**
  - (2) 生徒の実態より**
- 2 研究の概要**
  - (1) 研究の視点**
  - (2) 研究の実際**
- 3 研究の成果と今後の展望**

# 1 研究テーマ設定の理由

---

(1) これまでの研究の流れ

H29年度～

「主体的対話的で深い学び」の実現をめざす

課題設定・学び合い・振り返りの工夫

→ 言語活動の充実を図る。

# 1 研究テーマ設定の理由

## (2) 生徒の実態より

### 令和4年度 全国学力・学習状況調査より

- 「自分の考えが伝わる文章になるように、  
根拠を明確にして書く」 …県正答率50.3%
- 「自分の考えを発表する機会では、  
自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、  
話の組立などを工夫して発表していましたか。」  
…県正答率56.4%

# 1 研究テーマ設定の理由

## (2) 生徒の実態より

令和4年度 香川県学習状況調査より

- 「書くこと」の平均正答率59.8%
- 無回答率も増加傾向



目的や相手を意識して書く活動が不十分である現状が浮かび上がってきた。

# 1 研究テーマ設定の理由

## 坂出・綾歌支部が求める力

自分が伝えようとすることを明確にし、それが相手  
伝わるようにすることを意識して書き表す力



「言葉による見方・考え方」を働かせながら、身近なことを題材として深めていくこととした。

# 1 本研究でめざす生徒像

---

「吟味・推敲する活動」を通して

自分の思いや考えを適切に  
相手に伝えることができる  
生徒

## 2 研究の概要

### (1) 研究の視点ー

- ① 自分の考えを効果的に相手に伝えるための、吟味・推敲する活動の在り方
- ② 「学びの深まり」を実感するための振り返りと評価の工夫



# 2 研究の概要

## (2) 研究の実際

### 【対象】

坂出・綾歌支部内の  
すべての中学校の1・2年生

(1年生：667名、2年生679名)

使用教科書：東京書籍

## (2) 研究の実際

---

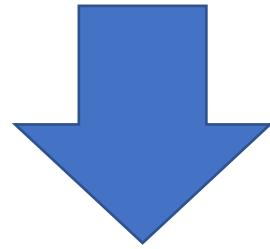
### 第1学年「小さな発見を詩にしよう」

#### 実践のポイント

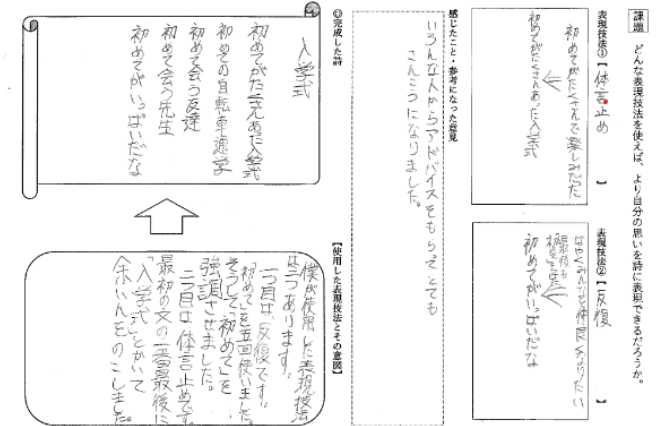
- ① 創作前に一番伝えたいことを明確にさせる
- ② 表現技法を吟味・推敲する活動
- ③ 表現技法に関する評価問題の実施

# 言葉を楽しむ「小さな発見を詩にしよう」

表現技法を吟味・推敲する活動において、  
視点を示す



- 「なぜ～という表現にしたのか」 (根拠・理由)
- 「要するにどういうことか」 (要約・抽象化)
- 「例えばどんなことがあるのか」 (具体化)
- 「比べてみると (どちらが) どうか」 (比較・対照)
- 「何のために、誰に伝えているのか」 (目的・相手意識)



# 授業の様子

---

# 言葉を楽しむ「小さな発見を詩にしよう」

小さな発見を詩にしよう

一年( )組( )番 氏名( )

1 詩の題材を見つけよう  
最近体験したことや、身の回りで見かけるものなどで、詩にしてみたいと思うことを  
短い文にまとめてみよう。

リレーで一生けん命走って勝つことができた

2 想像  
短い文  
で書いて  
詩では  
行を替え

足を大きく速く動かし

クッス対こりり  
まんなや不安の中バト、をうけとり  
足を大きく速く動かし  
みんなの力をあわせて勝つことができた

3 題名をつけ、表現を工夫しよう  
下書きができたなら、更に言葉を選び、表現を工夫して詩を仕  
比喻法(直喩、隠喩、擬人法)、反復法、倒置法、体言止め  
使ってみよう。

成血り上がった体は月影

あつぱつぱつかくりひるげらぬる  
風を切つておもいきり走る走る  
そして勝つことができた  
クッス対こりり

風を切つて おもいきり  
走る 走る

# 言葉を楽しむ「小さな発見を詩にしよう」

## 表現技法に関する評価問題例

### 小さな発見を詩にしよう 定期テスト

問一、次の会話を読み、後の問いに答えなさい。

新田さん 日常の小さな発見を詩にしてみたんだけど、ちよつと意見くれない？

植木さん もちろんいいよ。

大嫌いな蜘蛛の巣が

自転車のかごに付いている

でも今日は違う

昨日の雨のおかげで

光り輝いてみえるんだ

新田さん この詩には大嫌いな蜘蛛の巣が雨のおかげで光り輝いてみえた感動を表現したつもりなんだ。うまく伝わってるかな？

植木さん うーん。それは分かるんだけど、もつとよくなるような気がするなあ。例えば比喩を使ってみるのはいかがかな？

新田さん それはいいかも。もう一度考えてみるよ。

→この会話の後、新田さんは次のように詩を推敲しました。→

大嫌いな蜘蛛の巣が

自転車のかごに付いている

でも今日は違う

雨の魔法にかけられて

光り輝くダイヤモンド

(1) 推敲後の詩は比喩を使うことで、どんなことが強調されましたか。次の四つの文から一つを選び、記号で答えなさい。

ア、雨に濡れた蜘蛛の巣が、少しは美しくなったことが強調されている。

イ、雨に濡れた蜘蛛の巣が、どれほど美しいかが強調されている。

ウ、雨に濡れた蜘蛛の巣が、ダイヤモンドとはかけ離れていることが強調されている。

エ、雨に濡れた蜘蛛の巣が、ダイヤモンドのような美しさを取り戻したことが強調されている。

(2) 推敲後の詩には比喩以外の表現技法も使われている。使われている表現技法を次の四つから一つ選び、記号で答えなさい。

また、その表現技法を使用した効果について自分で考えて書きなさい。

ア、反復      イ、対句      ウ、倒置      エ、体言止め

# 単元前後のアンケート結果より（第1学年）

「詩や俳句、短歌を作ることが好きですか」

「はい」 単元前 48.6% → 単元後 53.6% **5.6%増**

「読み手の立場に立って自分の思いや主張を伝えることができますか」

「できる」「どちらかといえばできる」  
単元前 72.8% → 単元後 74.3% **1.5%増**

「書いた後、読み手の立場に立って、言葉を選び直したり、表現を工夫したりすること（推敲）ができますか」

「できる」「どちらかといえばできる」  
単元前 72.8% → 単元後 77.3% **4.5%増**

# 第2学年「根拠を吟味して書こう」

## 実践のポイント

- ① 根拠を吟味する活動の際、班や全体で最も説得力のあるものを選ぶ
- ② 客観的なデータの提示
- ③ 意見文の相互評価



# 「根拠を吟味して書こう」

## 客観的なデータの提示

A ショッピングモール  
駅に近い  
繁華街に隣接

イオンモールのような  
集合型店舗のイメージ

A ショッピングモールに関するデータ

D市民を対象とした街頭アンケート（全年齢平均的に）

現在の図書館の位置に不満があるか。	ある	47%
	ない	53%
図書館が駅の近くにあれば利用するか。	利用する	79%
	変わらない	21%

B スポーツセンター  
バス停は近い  
中高生に利用しやすい位置

大型のトレーニングルームがある  
トレーニングジムと体育館が  
合体したようなイメージ

駅を利用する人の目的の比率（年間の平均）

通学	22%
通勤	15%
繁華街・ショッピングモールの利用	
その他施設の利用	

D市民を対象とした街頭アンケート（中高生のみ抽出）

現在の図書館の位置に不満があるか。	ある	35%
	ない	65%
図書館がスポーツセンター内にあれば利用するか。	利用する	90%
	変わらない	10%

B スポーツセンターに関するデータ

スポーツセンター利用者の比率（年間平均）

11歳以下	12～18歳	19～25歳	26～35歳	36～50歳	51歳以上
9%	53%	2%	11%	15%	10%

・中高生の部活動やクラブチームの利用が大半



# 授業の様子

---

# 「根拠を吟味して書こう」

## 振り返り

意見文のなかに客観的な資料や数値などの根拠を使うとはっきり自分の意見を伝えられ、相手にも納得してもらうことができると級友の意見文を読み比べて改めて思った。身に付いた力は、最も納得させる根拠がどれか探せるようになったことだ。数値がある資料を選び、理由もいろいろな立場の人から考え、説得力のあるものを書くことができた。

◆ 学習を終えて（授業の感想・身に付いた力・今後生かせること）

意見文の中に客観的な資料や数値などの根拠を使うことは、自分の意見を伝え、相手にも納得してもらおうと探せるようになった。級友の意見文を読み比べて改めて思った。身に付いた力は、最も納得させる根拠がどれか探せるようになったことだ。数値がある資料を選び、理由もいろいろな立場の人から考え、説得力のあるものを書くことができた。今後、意見文は何かを迷わなければならぬと意識し、多岐にわたる場面を扱うようにしたい。そのような場面では、自分の意見と伝えたために構成の仕方にも気を付けて適切なる根拠を選んでいくようにしたい。

（※）

# 単元前後のアンケート結果より（第2学年）

「書きたい事柄について、具体例を挙げて書くことができましたか」

「できる」「どちらかといえばできる」

単元前 63.3% → 単元後 68.2% **5.0%増**

「自分の考えを書くとき、考えの理由（根拠）を明確に書くことができますか」

「できる」「どちらかといえばできる」

単元前 64.6% → 単元後 67.3% **2.7%増**

「自分の主張と理由（根拠）のつながりを考えて書くことができますか」

「できる」「どちらかといえばできる」

単元前 65.1% → 単元後 69.1% **4.0%増**

# 単元前後のアンケート結果より（第2学年）

「読み手の立場に立って自分の思いや主張を伝えることができますか」

「できる」 「どちらかといえはできる」  
単元前 65.1% → 単元後 69.1% **4.0%増**

「書いた後、読み手の立場に立って、言葉を選び直したり、表現を工夫したりすること（推敲）ができますか」

「できる」 「どちらかといえはできる」  
単元前 71.8% → 単元後 75.3% **3.5%増**

# 3 研究の成果と今後の展望 – 成果 –

---

吟味・推敲する活動を通して

表現や言葉の使い方が妥当であるか  
正しく相手に伝えるためにはどうすればよいか  
考えながら書くことができた。

# 3 研究の成果と今後の展望 – 成果 –

単元後に学んだことを活用する問題を  
定期テストで実施



学んだことを再認識したり、他に活用できる、汎用性のあるものだと実感できた。



# 3 研究の成果と今後の展望 — 成果 —

## 単元後の振り返りより

- ・「友達のアドバイスを取り入れて推敲することでよい作品になった」
- ・「班の人の意見文と自分の意見文を比較することで、根拠を使うことの大切さを実感した」

**考えが深まったという生徒の実感**

### 3 研究の成果と今後の展望 — 今後 —

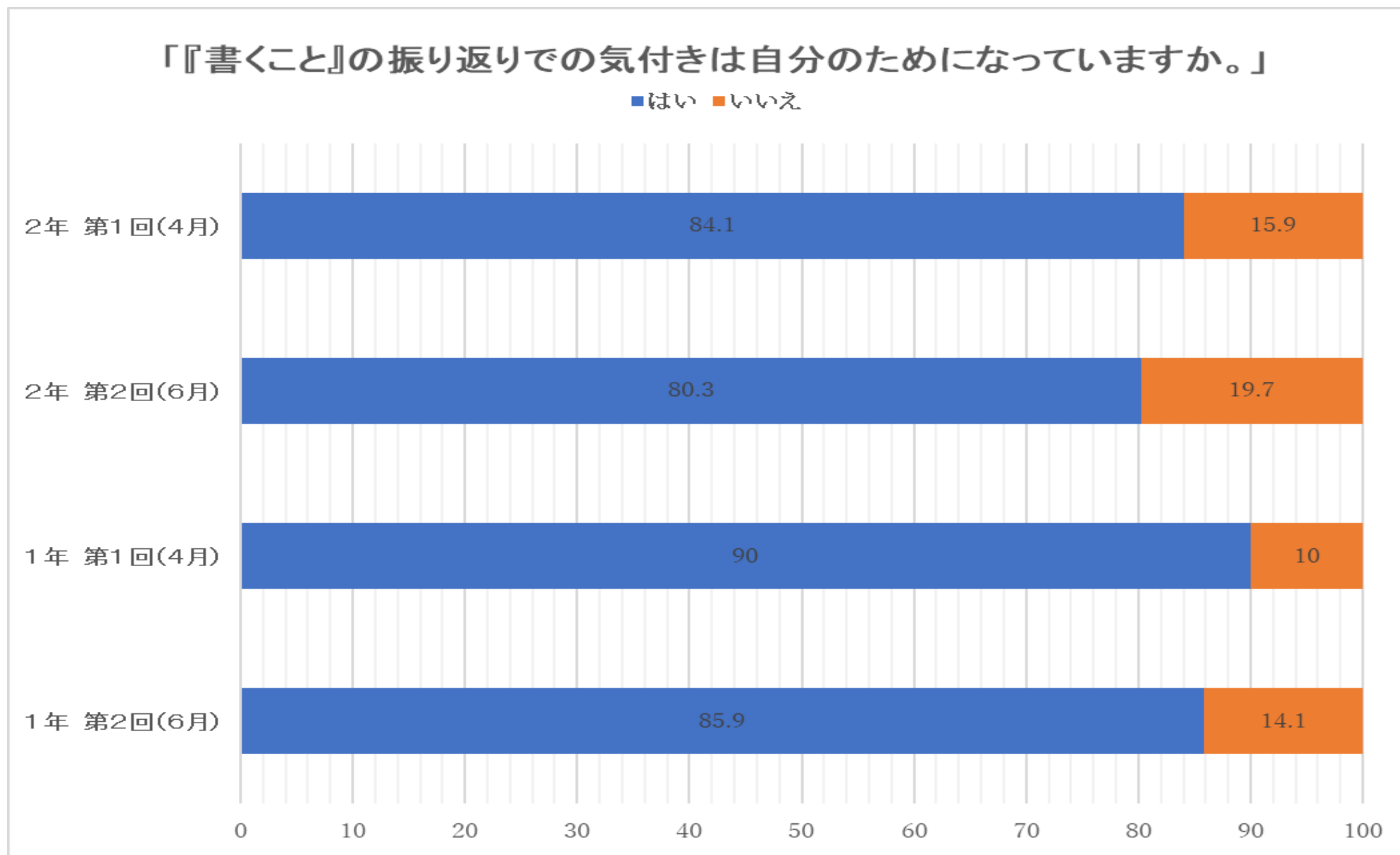
- どのように表現を工夫するか分からず、手が止まる生徒
- 一度書き終えた時点で満足感を抱きそのあとの活動に意欲的に取り組めない生徒

「よりよいものにしよう」と思えるような  
手立ての工夫

### 3 研究の成果と今後の展望 - 今後 -

#### ・ 単元後のアンケートより

否定的な回答が増加



# 3 研究の成果と今後の展望 — 今後 —

## 振り返りについて

○視点を明確にする

○学びの深まり、次の学びの意欲を表出させられるような振り返りの持ち方を検討する

**ご清聴ありがとうございました。**